

郡市農家と座談会も

崇城大カルチャーシンポ

発酵、光合成細菌で人吉球磨の農作物をよりおいしく安全にと、崇城大学のカルチャーシンポジウムが10日、人吉市カルチャーパレスで開かれ、同大学大学院生で(株)Ciamo代表の古賀碧さんらの講演や農家との座談会で可能性を発信した。

一般住民や高校生など約100人が来場。古賀さんは、地場資源を商品化することで

地方の魅力を発信したいと在学中に起業。事業を通して知った焼酎蔵の課題に専門性を生かし、光合成細菌と球磨焼酎粕から微生物資材を開発している。

「球磨焼酎粕を宝に！光合成細菌が秘める可能性を伝えたい」持続可能な第一次産業のために」と題した講演のあと、農業を営むあさぎり町の西実良さんと錦町の犬童幸和



ステージで開かれた座談会

さん、八代市の田淵稔さんと杉山やすよさん

が登壇して座談会に。微生物資材を使い始めたきっかけや活用法を尋ねたほか、後継者不足の課題では犬童さんが「子どもたちに農業の面白さを伝えることが大事」。西さんは農業を学ぶ高校生たちに「まず行動を。失敗の数だけ引き出しが増える。一歩踏み出す勇気を」と呼び掛けた。

近畿大学水産研究所の熊井英水名誉教授のゲスト講演「まぐろを育てるー世界初クロマグロの完全養殖ー」、崇城大学の三枝敬明教授による講演「微生物は音を聴くことができる?」も行われた。